











街には旧町名の辻標が
立っています



町家をうまく活用した、きもの屋さん

まち歩き 高田

写真：岸田國昭／デザイン：(株)高田広告舎プラステン









新潟のお酒と
地元の山菜料理での
懇親会。





長岡の名酒極上吉乃川と
上越一小さな酒蔵の越後美人



懇親会

住まいとコミュニティづくり NPO 交流会

第2回 地域交流会 in 高田 の記録



地域交流会／参加者62名

日　　時 ／ 2015年5月30日(土)　13:15〜19:00
開 催 地 ／ 新潟県上越市高田地区
協　　力 ／ 特定非営利活動法人 街なか映画館再生委員会
　　特定非営利活動法人 高田瞽女の文化を保存・発信する会

オプショナルツアー／参加者31名

日　　時　2015年5月31日(日)　10:25〜13:30
開 催 地　新潟県長岡市摂田屋地区
協　　力　特定非営利活動法人 醸造の町摂田屋町おこしの会



主催／一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

特定非営利活動法人 **街なか映画館再生委員会活動報告**

新潟県上越市本町６丁目：日本最古の映画館高田世界館の事例

報告者／上野迪音さん (高田世界館館長)



映画上映は重要な収入源

●昨年度迄県よりいただいていた緊急雇用支援事業がなくなり人件費、電気代などを稼がなくてはならない。火曜日を除いてほぼ毎日上映し、4 月、5 月は目標売上を達成できた。Yeah!

●映画のセレクション = 映画はメッセージの一つ。まんべんなく人を集められる。結果、若い女性客が増えた!Yeah!

人とのつながりが一番重要

●他では出会えないような人と人をつなぐ場をつくる。家でも職場でもない、第三項としての高田世界館。そして、ここでしか味わえない劇場体験を!

人と人とをつなぎとめるアイディアのあれこれ

1. デイリーな映画上映
2. 全国に名をはせる映画監督を呼ぶ
3. 市民同士の意見交換会
4. 建物を活用したここでしか味わえない体験

東京からUターンしてきた自分(28才)のこれから

40～50代で戻ってくる人はいても同世代の仲間がいないことから、生きづらさを感じることもある。個人的に、雁木の町家を若い人に住みやすく提供していきたい(ゲストハウス・シェアハウス・シェアオフィスなどとして)。これからもクリエイティブなことをどんどん進めていきたい。



映画館内部

街なか映画館再生委員会への質問と回答

Q:　来館者は高田の住民が大半でしょうか?

A:　来場者の分布は、通常営業の場合、地元9に対し近隣の遠方(長野市や新潟市)1くらいの割合です。見学は、地元以外がほとんど。地域の小学校の団体での見学は、年間10校近くあります (ケースバイケースですが、教育関係の見学は無料が多いです)。昨年は、韓国からの修学旅行もありました。

Q:　映画の上映権などは各配信会社に問い合わせするのですか?また、どうすれば上映できますか?

A:　上映は、配給会社から配給を受けています。配給ではなく、上映会というカテゴリーで上映する場合は、「長野映研」「新潟映研」という上映サポート会社が各地にあり、そちらを通して上映するのが一般的です。製作と配給の既成のルートがあります。その際作品にもよりますが、1回の上映につき、6万から30万くらいの価格帯になっています。世界館は、上映館(ある程度定期の興行場)というポジションなので、歩合制であったり、最低保証料金による上映であったり、作品の価格や配給会社によって様々です。したがって、赤字黒字も様々。

Q:　映画の入館料以外に何か収益を確保されている取組はありますか?

A:　団体の施設見学ツアー(予約)の際に、昔の日本短編アニメ(のらくろなど著作権OK)を見ていただき、館内ツアーを行うことで、1名500円程度の協力金をいただいています。小学生の総合学習など教育主眼の場合は原則として無料です。主催事業以外でも、映画、コンサート、講演会、演劇、落語、ダンスなどに貸出ししています。魅力的な内部空間を活かした写真撮影、映像ロケなど基本料金は3,000 円/時間。

Q:　私達にとって、【自立】は大きなテーマだと思います。世界館は、その意味で既に展開期に達していると思いますが、将来のビジョンについてお話を聞きたいです。

A:　世界館は建物の修理と営業(本来の非営利活動として)の2本立てで進めています。当初は「何とか修理」を優先していました。しかし、元々映画館なので「人の集まる場所で興行=収益事業ができる」という特色を活かせるようになってきました。●雁木町家界隈で高田小町と連携できるという場所●特色を生かした運営スタッフの雇用●上映、上演内容にあわせた発信。

など、一般企業でいうところの「収益」につながる事業を目指して【自立】すると同時に

○地域(町内から高田地区、上越市全域へ)との協調で賑わいを取り戻す。○雇用継続、地域内ビジネスに貢献(カフェ・ゲストハウス)○発信だけでなく受信を目指す(起業支援など)

ことにより、地域の活力を生み出し、ローカル経済を回して人を増やす。集まる場所と人材を育て、【共生】することだと思います。

特定非営利活動法人

高田瞽女の文化を保存・発信する会活動報告

新潟県上越市本町７丁目：瞽女文化の常設展示可能な美術館への改装事例

報告者／小川善司さん



雪が育んだお互いを思いやる気持ち

雁木は1751年の高田地震がきっかけといわれる。民家の軒先から張り出した庇の下は民有地で雁木も個人でつくる。

団体設立のきっかけは、斉藤真一が描いた瞽女の絵画作品の寄贈先を探していたコレクターとの出会い

160点の作品等は上越市に寄贈されたものの、現在収蔵庫の中に眠る。市民をはじめ全国の人に見てもらいたい。寄付を募るなどして、登録文化財の雁木町家「麻屋高野」を常設展示が可能な美術館にすべく改修中。

瞽女とは

三味線を携えて旅廻りをして生計を立てた盲目の女旅芸人。6～7 歳で弟子入りし、厳しい修行を積んだ。高田藩の瞽女は、親方が雁木通りの町中に居を構え、弟子と共同生活を送っていた。世界館の界隈には親方の家が14軒あったという記録が残っている。高田瞽女は上越地域から、信州の上田や佐久、上州の前橋や高崎にまで巡業の旅に出た。村々に着くと門付けを行い、夜は瞽女宿に村の人を集めて演奏会を行った。巡業先で得たお米を換金し、家に残る幼い子どもや高齢の瞽女も含めて平等に分配していた。このような瞽女の生き様や人情は人の心を打つ。瞽女の文化を絵画作品などを通して大勢の人、特に若い人に伝えていきたい。



発表風景

高田瞽女の文化を保存・発信する会への質問と回答

Q:　高田瞽女の魅力を高田のまちの人に伝える活動は何かされていますか?または、まちの人々の意識改革を起こすために何かされていることはありますか。

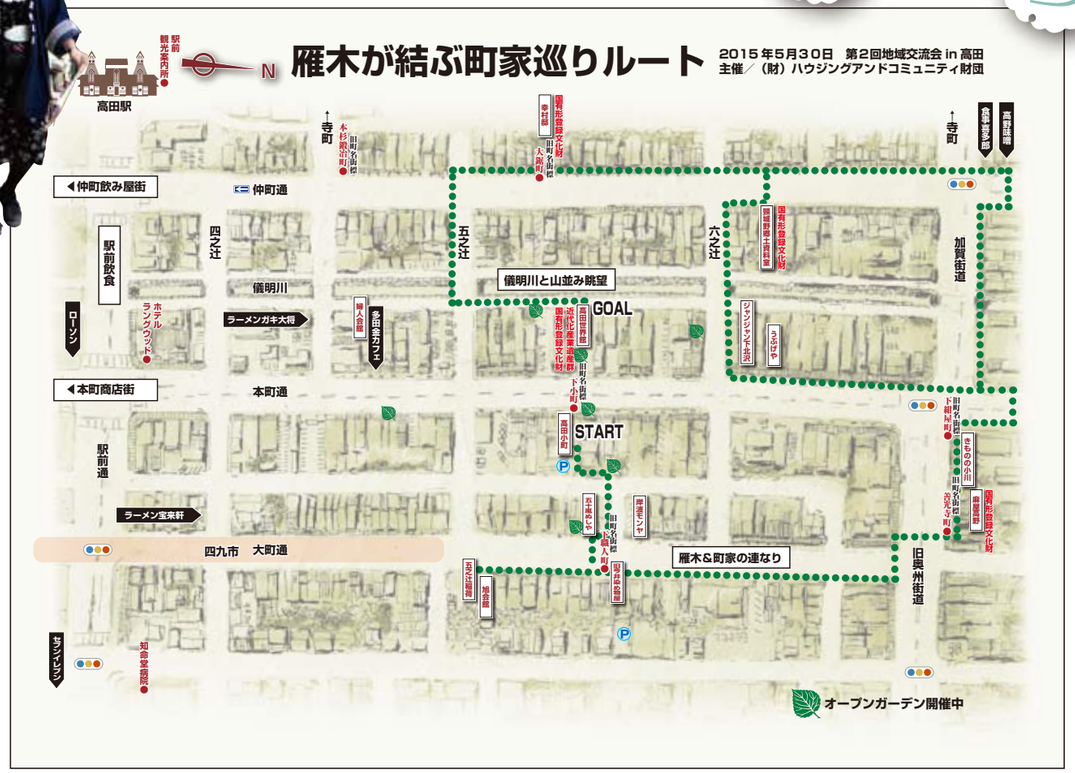
A:　定例行事は高田瞽女のゆかりを尋ねるバスツアー(初夏)、雁木の門付け再現と瞽女唄演奏会(冬)。不定期で、瞽女シンポジウム、斎藤真一作品の展覧会、ゆかりのある寺院で瞽女唄奉納など。また、会員向けの「瞽女だより」発行、高田瞽女関連の商品開発、ホームページでの発信などを行っています。瞽女文化だけでなく、障がい者や、人権教育に関する視察見学も受け入れました。市街地の住民には、「昔、瞽女という盲目で、気の毒な女たちが身を寄せ合って生きていた」と いうネガティヴな印象が強いのですが、巡業先での彼女たちの役割と真摯な生き方を正しく伝えることで、地元での瞽女文化復権と都市-農村のローカル共同体の再認識を目指しています。地域外からの注目と評価は、地元の意識啓発に大きな効果があります。



瞽女門付け再現



高田エリア 新潟県上越市本町６丁目界隈



参加者が高田を歩いて感じたことや気づいたこと

◆同じ県内にいながら、正直ほとんど知りませんでした。歴史のある町ですから当然なのでしょうが、良いものが沢山残っていました。着物屋さんは古いものと現代とをうまく調和させて素敵だと感じました。駅からも近く、中心市街地にあるというメリットをうまく活用してほしいです。

◆共にHC財団と東日本鉄道文化財団の支援を受けた団体としては、負けないようにがんばりたいと思います。

◆雁木のまちなみや、瞽女の文化や世界館など、まさに地域の人々にとっては日常的過ぎて気づかない魅力を伝えるための動きを、小さな活動から始められ、その魅力を地域の人々に伝えていく姿に、高田のまちの厚みを感じ、刺激となりました。まちの魅力は、既存の物を利用するにせよ、新たにつくるにせよ、その魅力を皆で掘り起し、伝えてくものなのだなと改めて感じました。

◆現地で活動現場の生の声を聞きにはるばる新潟まで来た甲斐がありました。雪国の生活は瀬戸内海の我々には想像がつかないものでしたが、やはり百聞は一見に如かずですね。尾道の空き家も大変ですが、世界館さんや摂田屋さんの大型物件を見て、こちらも勇気づけられました。

◆高田のそれぞれの団体の個性、繋がりは素敵でした。思いは、連鎖し、広がっていく。1つ、2つと思いを形に残し、蘇っていくものがあり、それが地域のかけがえのない宝物になるのだと思いました。



摂田屋エリア 新潟県長岡市摂田屋界隈



参加者が摂田屋地区を歩いて感じたことや気づいたこと

◆醸造のまちをキーワードに地域の文化を伝承するという、しっかりとしたコニュニティが形成されていると感じました。私たちの地域も平安・鎌倉・江戸の足跡がありますが、摂田屋地区ほど住民が「歴史・文化の力」を信じている地域はないと思います。次世代の子どもたちに歴史や文化を伝えるということは、ただ単に古い屋敷を残してゆくことではなく、そこで、どんな営みがあり、物語があったのかを正確に伝承してゆくことだと思っています。私たちが残す佇まいが子どもたちの心の寄りどころになれば、と感じています。

高田地区、摂田屋地区 両地区への質問と回答

Q:　地域のシンボルでもあるサフラン酒本舗での活動が中心になっているかと思いますが、地域のその他の建物に対する活動展開などは行っておられるのでしょうか。

A:　摂田屋の建物も含めた景観の保全を行っています。これまでに以下のことを行ってきました。●7つの建物の登録有形文化財化●史跡サインの整備●街並み整備事業の推進●建物や史跡を活用したイベント、歴史講演会●散策マップの制作

Q:　二地区ともに、文化財登録制度をよく活用されており、自分たちの建物に誇りを持っている様子が伺え、感銘を受けました。文化財登録に際して働きかけなどは行ったのでしょうか。また、組織・地域的に文化財登録を増やそうという意識をお持ちだったのでしょうか。

A:　高田世界館は、経産省の近代化遺産認定が先行して、翌年、NPOとして文化財登録を行いました。雁木町家については上越市と新潟大学の調査記録が整備されていたので、所有者の了解を得て申請しました。地元の歴史的建造物保存修復の専門家に指導してもらいました。上越市（教育委員会所管）は、所有者の発意があれば手続きに協力するというスタンスですが、歴史的建造物等整備支援事業の条件として、登録文化財相当の建造物であることが条件になっています。<高田地区>

A:　文化財登録への働きかけを積極的に行いました。登録されても今まで通り使っていけることを理解していただくのには、多少時間がかかりました。また文化財登録を増やす意識を持っていました。やはり世間の人に興味を持っていただくには有効な手段ですし、登録のための専門家の建築調査も後に役立っております。<摂田屋地区>

2015年度の助成 対象団体の紹介

団体名／市川マップの会（山梨県市川三郷町）



活動のテーマ／江戸時代の酒蔵を拠点に地域の歴史文化の情報発信

紹介者／一瀬茂さん

紹介概要／地域の道祖神めぐりをきっかけとして会を設立。今年度は、大学との協働で登録有形文化財の蔵を改修してギャラリーとすることで、地域住民の交流の場の創出を目指す。

団体名／絵金のまち・赤岡町家再生活用プロジェクト（高知県香南市）



活動のテーマ／“あかおかびと”による赤れんが商家の再生活用

紹介者／北山めぐみさん

紹介概要／昨年末から活動を始めた。高知高専生が実践的に地域と関わっている。今年度は、二日後に壊される予定だった赤れんが商家の再生活用を通して、多様な主体でまちの将来像を検討する。

団体名／西岬海辺の里づくり協議会（千葉県館山市）



活動のテーマ／茅葺き屋根のある暮らしのサイクルを再生する取組

紹介者／佐々夏来さん

紹介概要／住民、大学生、教員で5年前に団体を設立。地域で唯一残る茅葺き民家「ゴンジロウ」が活動拠点。今年度は放置された茅場を再生し、地元の茅で屋根の葺き替えを目指す。

団体名／特定非営利活動法人 醸造の町摂田屋町おこしの会（新潟県長岡市）



活動のテーマ／豪商の館「機那サフラン酒本舗」の保全と地域活性化活動

紹介者／平沢政明さん

紹介概要／空襲を免れた地域の景観を活かしてまちおこしを開始。今年度も機那サフラン酒本舗の建物・庭園の修復を最終目標として、一般公開日を増やし、片付け・清掃を継続して行う。

団体名／岩首談義所（新潟県佐渡市）



活動のテーマ／ようこそ棚田へ!就農シェアハウスを集落に

紹介者／新田聡子さん

紹介概要／廃校を拠点に都市との交流事業を実施。今年度は、世界農業遺産の棚田を継承する新住民に入居してもらえるように、集落民が団結して空き家を改修し、就農シェアハウスの開設を目指す。

団体名／特定非営利活動法人 伊勢河崎まちづくり衆（三重県伊勢市）



活動のテーマ／伊勢河崎商人館のイノベーションを核とした地域活性化

紹介者／高橋徹さん

紹介概要／河川改修を契機とした町並み保存運動に端を発する。今年度は、団体が10年以上管理・運営する伊勢河崎商人館の建物や収蔵品の価値向上を、デザインの視点を取り入れて展開する。

団体名／ダッズ村プロジェクト（京都府城陽市）



活動のテーマ／ダッズ村 父子が創る父子の為の地域子育て支援拠点

紹介者／荒井圭一郎さん

紹介概要／父親と子どもだけで家をつくる活動を2013年から開始。地域でとれる材料を活用した手作業を実施。今年度は、完成間近な家の前にある倉庫を改修して地域防災拠点の開設を目指す。

団体名／特定非営利活動法人 尾道空き家再生プロジェクト（広島県尾道市）



活動のテーマ／尾道別荘建築「みはらし亭」再生による茶園文化の発信

紹介者／豊田雅子さん

紹介概要／2007年から空き家やまちの再生に取り組む。近年は、大型・文化財級の空き家の再生を手がけており、今年度は、別荘建築の再生を地域の茶園文化に基づいたイベントを通して検討する。

団体名／特定非営利活動法人 どんぐり1000年の森をつくる会（宮崎県都城市）



活動のテーマ／「井戸」を掘り、どんぐり村での活動を拡大しよう

紹介者／徳永由佳さん

紹介概要／どんぐりを大淀川流域に植える活動を開始して来年で20年。今年度は、3ヘクタールの体験の森に井戸を掘ることで、来訪する子どもの増加を促し、自然環境の大切さを学んでもらう。

選考委員のコメント

選考委員長
鈴木輝隆さん（江戸川大学 特任教授）



活動現場には、時代に必要とされ、そこに行くと元気や勇気が出てくるような存在価値があることが重要だと感じます。また、いまや地域内にとどまらず、グローバルな視点で世界の人に勇気を与えられるような地域づくりでないと通用しない時代にさしかかっていると思います。絶えず新しい目でものごとを捉えていくことが、新しい時代に新しい価値を創っていくのではないでしょうか。

窪田亜矢さん
（東京大学 特任教授）



各地域には人間が生きていく上で厳しさがありますが、だからこそ、楽しみを見つけながら共同のルールや仕組みを作って生きていくことが重要なのだと感じました。

関由有子さん
（せきゆうこ設計室 代表）



活動している場所にとどまらず、周辺一帯の環境と気候風土、人の気質まで、新しい気持ちでトータルに見直すことで、特徴が顕在化し、活動が継続できるのではないかと思います。

山下馨さん
（山下馨建築アトリエ 代表）



設立間もない団体、長く続けていて少々マンネリ化している団体、次の展開を目指している団体など、各団体の状況に応じて助成事業が果たす役割に思いをはせました。